

み あ さ づ く り



大塩地区「おんべ焼き」

令和2年1月5日、大塩地区「おんべ焼き」が行われました。松飾や古いお札、縁起物などを焼いて1年を振り返りまた、新しい年の無病息災を祈願する新年の風物詩です。おんべの残り火で焼いたお餅を食べると1年間風邪をひかないと言い伝えられています。今回は子供たちが用意されたおやつの中に入っていたマシュマロを串焼きにして焼いて嬉しそうにほうばっていました。数十年前までは集落ごとで行われていましたが

現在は一か所での行事となっていて、自治会・育成会・PTAの協力のもと行われています、伝統ある貴重な行事を後世に引き継いでいけたらと思うところです。

73

2020. 1



facebook



ホームページ美麻Wiki

《 地域 の 話題 》

美麻公民館事業「しめ縄正月飾りとお餅つき」

12月4日水曜日、旧中村家住宅で美麻小中学校5年生との交流を兼ね、しめ縄づくりとお餅つきを行いました。

この事業は毎年行っていて、参加者は子ども達と活動出来るので、とても楽しみにしています。

当日、早い方は7時30分ころ旧中村家住宅へ来て、もち米を蒸すかまどやお湯を沸かす囲炉裏に火をつけた後、お餅つきの準備をしました。

10時ごろ、一臼目のお餅がつきあがりました。二臼目と三臼目は、子ども達と一緒につきました。初めてお餅つきをする子もいましたが、参加者から手を添えてもらいながら、しっかりとお餅をついていました。

併せて、正月飾りも作りました。藁の束ね方や巻き方を教わりながら丁寧に編んでいき、自分達で完成させまし



た。そしてお昼です。自分たちが育てたもち米でついたお餅は、格別な味だったに違いありません。食べる時の子ども達の笑顔を見ると、今後もこの事業を継続していきたいと改めて感じました。

源流美麻太鼓バチ納め演奏会



令和元年12月1日、大町市文化会館大ホールにおきまして源流美麻太鼓バチ納め演奏会「源流からの鼓動2019」を開催いたしました。年間を通じて唯一の自主公演となるバチ納め講演会ですが、当日はお忙しい中にも関わらず、日頃より我々を応援してくださる市民の皆様、

太鼓仲間のOB・OGの皆様など約260名ものお客様にお越し頂きました。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。又、保護者役員を始め関係者の皆様のご尽力がなければこのような大イベントを行う事は到底不可能であり改めて感謝を申し上げます。大勢の皆様の前、しかも大ホールでの演奏は普段味わえない独特な緊張感と充実感に包まれて1年間の集大成として最高の舞台となりました。春にはチームを卒業する高校3年生4人、うち2人は受験のため参加できませんでしたが、2人が参加することができました。最後のバチ納め、チームを引っ張り盛り上げて自身の太鼓人生の締めくくりにふさわしい素晴らしい演奏をしてくださいました。太鼓で培った度胸と愛嬌を発揮して、それぞれの道を堂々と歩んで行って欲しいと願います。世代交代が進む今年にはチームにとって「改革」の年になります。年末には無事にバチ納め演奏会ができますように又、振り返って素晴らしい1年だったと思えるように、今年も邁進して参りますので皆様のご支援を引き続きお願い致します。

源流美麻太鼓代表 保科充志

《地域の話》

最後のバチ納め

今年のバチ納め演奏会は私にとって最後だったので、まず演奏会をする意味を考えました。第一にお客様に来ていただくということで、日々応援して下さる方々への感謝を伝えなければならないこと、これは今年のチームのテーマにもあることです。次に1年の集大成として演奏すること、考えると同時に私は危機感を抱きました。今のチームには演奏会を行うにあたり足りないことが沢山あったからです。自分にとって悔いの残る演奏会になるのだろうと思いましたが、でもそれはチームにとってもまだまだ改善できる所があるということです。子供の最年長として今まで反省し、色々私なりに考えて伝えました。まずは礼の仕方から、練習態度、もちろん太鼓の打ち方など細かく見て注意をしました。時には年相応以上の振る舞いを求めてしまった事もあります、ですがチームのみんなは何も言わず丁寧に直してくれました。バチ納めの演奏当日、昨年の彼らとは全く違っていたと思います、一人一人真剣に取り組んでいるのを感じました。私は、最後というよりチームの向上を目指し取り組んでいたのがやり遂げられたことを嬉しく思い、悔いの残らない演奏会にすることができました。全力で取り組み演奏を通して感謝をつたえられたかなと思います。しかし、現状に満足してはいられません、改善して向上できる所はまだまだ沢山あります。残り二か月、チームのみんなと一緒に成長し

ていこうと思います。最後に、バチ納め演奏会にお越しいただいた皆様、日ごろから応援して下さる皆さん、本当にありがとうございました、感謝の伝わってれば幸いです。

また、何か月も前から準備をして下さった役員、保護者の皆さん、そして源流美麻太鼓のチームのみんな、本当にありがとうございました。2020はチームにとって「変革」の年です、私もワクワクしています、さらに成長していく源流美麻太鼓にご期待下さい。

大町岳陽高校三年 安松鈴葉



最後のバチ納め

今回は最後のバチ納めだったので特別なものになりました。今年度私は受験生だったため、ステージにあまり出られず、バチ納めにも参加するかどうか迷っていました。しかし、七年間頑張ってきた思い、また仲間である同級生とできる最後のバチ納めという気持ちを改めて感じ、バチ納めに出ることにしました。バチ納め当日はいつも以上に緊張し、演奏中は今までの集大成を飾ろうと全てを出し切って演奏しました。全曲を叩き終わった後、達成感を感じ自分でもすごく感動しました。本当に七年間頑張ってきてよかったと思います、一緒に頑張ってくれた仲間にも感謝の気持ちでいっぱいです。

大町岳陽高校三年 江津葉



《 地域 の 話 題 》

共に考える 大町市のこれから まちづくり フォーラム



今回のまちづくりフォーラムの発表では、劇も入れたこともあり少し緊張しました。また、他のグループの発表を聞いて、地域の学校の活動を知ることができました。ワークショップではこれからのまちづくりについて話し合いました。色々な人の思う『大町のいいところ』を聞くことができよかったです。美麻かるたにも生かしたいと思いました。(8年 間籐仁美)

僕は、まちづくりフォーラムを通して思ったことが二つある。一つ目は、みんな違う観点をもっていても、まちへの愛は一緒ということだ。どの人の話も興味深くおもしろかった。地域への愛を感じ

た一日になった。二つ目はみんな未来が「不安」ということ。大町市のこれからについて話しあったとき「どうなるかな？」と不安の声が聞こえた。不安があるからこそ、大町を心から変えたいと思っている。そんな風に自分の思いに気づかせてくれたまちづくりフォーラムに感謝です。

(8年 榎本航)

新自治会 ～創りだそうみんなの宝物 LET'S CHALLENGE!～

私は入学してから8年生の今まで、この美麻小中学校で過ごしてきました。学年があがるにつれ、任された仕事に対する責任感も出てきて、リーダーとして活動する機会も増えていきました。8年生の2学期後半からは、9年生という偉大な存在のありがたさ知りました。自身の勉強・部活・自治

会の運営・歌声づくり・梨の木祭などの行事の準備…これらのことを両立して行い、また全校のことを気遣いながら、「つながり」のある学校を創り上げてくださいました。

次は、私たちが創っていく番です。9年生が創り上げてくださった「つながり」を大切に、一人ひとりの個性を生かして新しいことに挑戦していきたいです。そして、かけがえのない宝物を全校で創り上げて行けたらと思います。自分たちの力を最大限に発揮できる一年にしたいです。

(8年 大方愛奈)

梨の木峰にある「忠魂塔」 をきれいにしたい！

6年生の社会科の平和学習で、戦争について学びました。忠魂塔の見学後「ここをきれいに掃除したい」という声が上がりました。映画「火垂るの墓」や写真「火葬場の前に立つ少年」から戦時中の生活について対話し、日清・日露戦争から太平洋戦争に至るまでを「美麻村の百年」の資料を扱いながら学習を重ねた後、清掃活動をしました。ゲストティーチャーの北沢伊さ男さんのお言葉「戦争だけは、絶対にやってはいけない」という言葉を、学習プリントに太くはっきり書いた、ある子の文章が印象に残りました。(北沢伊さ男さんの「さ」は糸へんに左)

【活動後の感想】

- ・すごい清々しい気持ち。きれいになってよかった。
- ・木の枝が落とされているから、誰かが管理しているんだよね。
- ・「戦争」という言葉は誰も聞きたくもないし、行きたくもない。昔の人に感謝し、この命を大切にしたい。



特集 小さな拠点をつくる

美麻地域づくり会議は、地域の活性化に向けた4つの目標

- ① 美麻の将来に何が必要か考える。
 - ② 地域の困りごとはお互いに理解して解決する。
 - ③ 行政が伝えきれない地域の情報を発信する。
 - ④ 地区全体で行う行事等の実施に協力する。
- の実現に向けた活動を平成18年より継続してきました。



◆持続可能な地域づくりに向けて

昨今、全国的に少子高齢化、人口減少が大きな社会問題となっていますが、昭和40年代より過疎の進む美麻地区では、一昨年、道の駅で長年活性化に力を尽くされた農産物販売所が閉店を迎え、昨年は農協の金融窓口が閉鎖となる等、住民生活に直結する様々な影響が肌で感じられるようになってきました。

昨年、大町市より依頼された、道の駅ぽかぽかランド美遊の提案を検討する中で、観光や地域イベントだけではなく、住民の生活に役立つ拠点として、11月21日に牛越大町市長に持続可能な地域づくりを行うため国が設置を進めている「小さな拠点」の活用を提案し、具体的な検討を進めていくこととなりました。

■ 小さな拠点とは 安心して暮らしていく上で必要な生活サービスを受け続けられる環境を維持していくために、地域住民が、自治体や 事業者、各種団体と協力・役割分担をしながら、各種生活支援機能を集約・確保したり、地域の資源を活用し、しごと・収入を確保する取組を「小さな拠点」づくりといいます。（内閣府 地方創生推進室 資料より抜粋引用）

◆小さな拠点検討の経過

- H18.5～ 道の駅活性化事業「みあさいーとこよっとくれフェア」の開催
- H22.4～ 道の駅活性化事業「美麻市」を開催（継続中）
- H26.11～ 神城断層地震発生～震災の影響によりぽかぽかランド美麻休業
- H28.3.13 先進地視察（東京都ふるさと帰郷支援センター：移住定住対策）
- H28.5 学校美麻市民科で「地域活性化」「過疎対策」等テーマが増加
- H28.8.6 ぽかぽかランド美麻震災復興イベントを開催
- H28 花豆の特産品に向けて栽培農家の拡大
- H29.3.26 先進地視察（住民運営による無償運送バス 神奈川県横浜市 菊名お出かけバス）
- H29.10.22 美麻地区文化祭で花豆製品の販売開始（花豆特産品化）
- H30.7.22 花MAME株式会社が「銀座NAGANO」で花豆製品の販売会を実施
- H30.10.20 先進地視察（民営地域振興住宅、自治会による移動支援広島県三次市ブルーリバー）
- H31.4.10 美麻支所より道の駅ぽかぽかランド美遊活用提案の検討について依頼される。
- H31.4～6 広報部会、役員会を中心に活用方法の検討を実施
- R01.7.13 道の駅活性化をテーマに美麻地域づくり委員会と合同で先進地視察研修を実施。
- R01.8月 地域づくり会議役員会において、小さな拠点を活用した活性化提案をまとめる。
- R01.9月 美麻地域づくり委員会に活性化提案の報告と意見聴取
第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略に小さな拠点を提案（美麻支所）
広報9月号で視察研修内容を報告
- R01.10月 自治会長会議に活性化提案の報告と意見聴取
- R01.10.31 道の駅活用提案（小さな拠点づくり）住民向け説明会を開催



《小さな拠点通信》

説明会で地域の課題を共有

(令和元年10月31日)

◆なぜ必要なの？

今、日本中の多くの地域では少子高齢化が進み人口が減少しています。人口が減少すると、地域の共同作業では負担が増えたり、行事やイベントの参加者が減ることで活気がなくなったり、日常生活上の不便が増え、地域の魅力が低下することが心配されます。



◆地区の人口はどうして減少してしまうの？

人口が減るには、「自然減」と「社会減」という2つの要因があります。
 自然減は、生まれた人数－亡くなった人数＝マイナスになる状態。少子高齢化で平均寿命が延びているのにマイナスになるということは、生まれる子供の数がとても少ないということではないでしょうか。
 社会減は、地域に移り住む人－地域から出ていく人＝マイナスになる状態を言います。美麻地区はかなり以前から両方ともマイナスが続いてる状況です。

◆30年後の人口を推計

独自に行った人口推計では、美麻地区の人口は、今後30年間で500人減少すると予測されていますが、少子高齢化が進む中でも、ご近所の支え合いを維持していくには、800人程度の人口を確保する必要があると考えています。

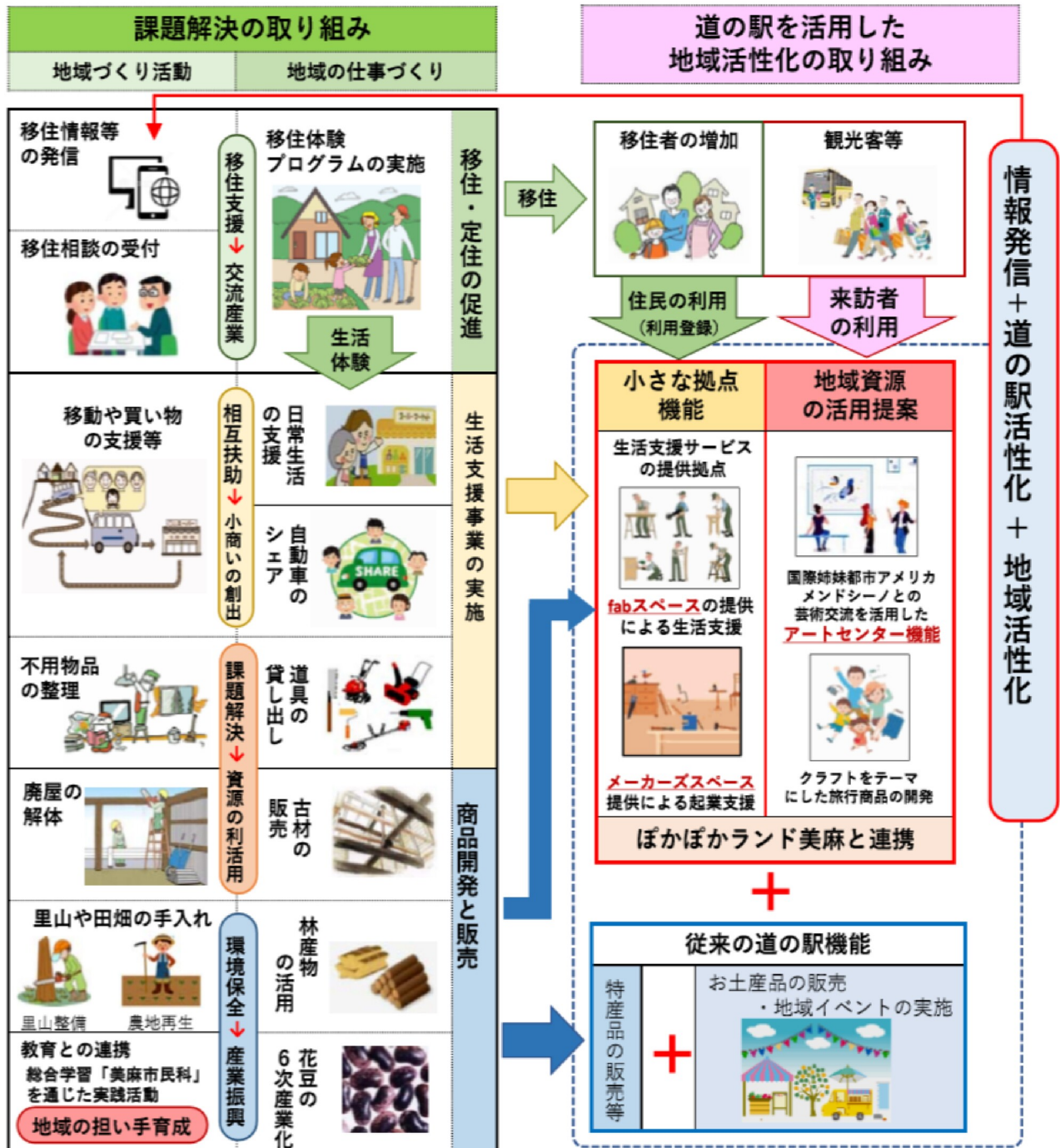


地域の課題	
活力低下のスパイラル	解決が必要な課題
地域の人口減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが地域に帰ってこられる環境づくり ・人口を増やすこと
生活関連サービスの縮小 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の減少 ・新たな担い手の創出 ・代替サービスの検討 ・提供方法の検討
日常生活の不便 	(日常生活上の不便) <ul style="list-style-type: none"> ・免許返納で移動不便 ・買い物、通院、通学等が遠い。時間かかる ・バスの便が限られる ・生活リズムの変化 ・日常活動量の減少 ・要介護のリスク増大
転出者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・住環境の悪化 ・自治会活動の負担増 ・祭り等の実施負担増 ・地域の活力低下 ・景観の悪化 ・資産価値の低下 ・寂れたイメージ定着 ・犯罪リスクの増加
空き家・廃屋の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の悪化 ・災害発生リスク増加 ・有害鳥獣被害の増加 ・地域の魅力低下
里山や田畑の荒廃 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の悪化 ・災害発生リスク増加 ・有害鳥獣被害の増加 ・地域の魅力低下
地域の担い手育成と地域課題の解決 → 美麻小中学校との連携によるCBL※1の導入	

《小さな拠点通信》

小さな拠点で実施すること

地域の課題を解決するため、小さな拠点では次のような事業を実施することで、持続可能な地域づくりと道の駅の活性化を目指します。



- 1 移住支援 ⇒ (交流産業の創出)
- 2 相互扶助 ⇒ (生活支援サービスの実施)
- 3 地域課題の解決 ⇒ (地域産業の振興)
- 4 環境の保全 ⇒ (地域資源の利活用)
- 5 地域の担い手育成 ⇒ (持続可能な地域づくり)

《小さな拠点通信》

課題を考えるワークショップを開催

12月20日、小さな拠点づくりワークショップを開催し20名の皆さんに参加いただきました。

【解決が必要な5つのテーマ】

- 1 どうして美麻の人口が減るのか
- 2 日常生活で不便なこと
- 3 荒れた農地や空き家が増えて困ること

4 花豆の特産品化を仕事にするには
5 ぼかぼかランド美遊が使われない理由について、参加者の意見と事前に回答いただいた中学生の意見から課題を整理しました。

■整理された地域課題の例

#1 買い物

買い物に出るのが不便
ぼかぼかランドにコンビニがあればよい
生活関連インフラが充実していない

ちょっとした買い物スポットがあれば、
たいした買い物もなくても大町まで行かなければいけない。

8.8~18.2km
6.3~8.1km

美麻地区には生活必需品を買い物ができない

スーパーがない
コンビニがない
ガソリンスタンドがない
銀行ATMがない

移動販売車が巡回して来ればよい。

店が近くにないから買い物が不便。

※店舗までの距離は、5地区の中心から最寄り店舗までの最短～最長で表示した目安です。

解決できたら暮らしやすくなる日常生活の不便

美麻地区内には生活必需品を買い物がほとんどないので、たいした買い物も、地区外まで出かける必要がある。

日常生活で、時間もお金も余計に必要になる。

— 次回は —
小さな拠点で出来ることを考えます。

#2 移動（交通）が不便

ふれあいバスの回数が少ない。休日の運行がなく不便
(交通の)足がない人が多い バスの本数が少なく買い物行きづらい。

ふれあいバス停まで出られない。電車に合わせたバス
高校生が駅から帰ってくるのに便利になるバスを増やす。

高校の電車に合わせたバスが欲しい
美麻-白馬、美麻-長野のバスがあればよい。 バスの本数が少ない
白馬行きの電車に間に合うバスがほしい。
バスを北と南で分けて、本数を増やしてほしい。

今は運転できるから問題ないが、道路が上り坂、下り坂で、曲がりくねっている。
将来車なしの生活だと交通の便が悪い 車社会の今日、公共交通が本当にネック

学校の通学が不便、年よりは買い物が車がないと生活できない。
(車があるうちは良いが)バスが使いづらい。

冬場の路面凍結 冬は支所、学校、保育園までの道が凍って困る

交通手段がどんどん無くなっていき、美麻に残っても何もできなくなる。
松本、長野、東京へ行くのに時間がかかる。

解決できたら暮らしやすくなる日常生活の不便

運転免許のない人は、市民バスふれあい号が使いにくい。

自動車を運転している人は、冬季の道路状況に不安がある。

自動車~~が~~運転できないと生活しにくい。

— 次回は —
小さな拠点で出来ることを考えます。

小さな拠点づくり今後の予定

○令和2年2月から 小さな拠点についての地区説明会を開催します。

地域課題解決ワークショップを開催します。

○3月9日（予定）小さな拠点について知る講演会を開催します。

ご都合つけて、ご参加ください。

《地域の話題》

みあさ保育園令和最初の発表会

12月7日 みあさ保育園の発表会が行われました。

家族みんな発表会をとっても楽しみにしていました。当日、どの子どもみんな目がキラキラ輝いて、観ているこちらも元気になれました。少人数だからなのか、我が子とは限らず、他のお家のお子さんの出し物でも、一人一人成長を感じて、うれし涙が…。笑。心温まる発表会。来年も楽しみです。(重田あまな)

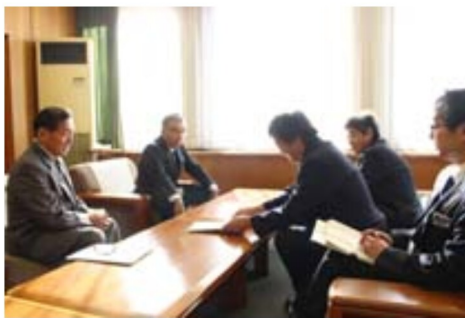


小さかった我が子も今年は年長さんで劇にも挑戦。みんなで力を合わせて木の命を助けるという心温まるものでした。ひよこ組さんの“オオカミなんか怖くない”も可愛いすぎでした！先生方の愛情溢れる保育にも心から感謝の素晴らしい発表会でした。(菅野弘子)

毎年、風邪にならないか心配して過ごしてる時期。本番の日、少人数なので、オープニングからずっと出ずっぱりの見ごたえある発表会。みんなよく覚えた！みんなでつくりあげて、生き生きとした子どもたちの自信をもった演技。とっても感動しました。(柏原亜衣)

小さな拠点づくり を大町市に提案

昨年から検討を続けてきた持続可能な地域づくりに向けた「小さな拠点づくり」の提案を令和元年11月21日に大町市長に提出し、設立に向けて具体的な内容について調整を進めていくこととなりました。



【以下、大糸タイムス紙11/29より引用】

大町市美麻の「ぼかぼかランド美遊」を有効活用する“小さな拠点、づくり事業が始まる。美麻地域づくり会議が今月、牛越市長へ提案書を提出した。

小さな拠点は「暮らしを守り、地域コミュニティを維持して持続可能な地域づくりを目指す」ための取り組みとして国が進める。地域運営組織の法人化などを促進する。地域づくり会議では、全国の先進的な取り組みを視察するなど、数年をかけて準備を進めてきた。

小さな拠点づくりに向けた ワークショップを開催

12月20日、小さな拠点づくりに向けて、地域づくりの課題を話し合うワークショップを開催しました。



■ 編集・発行

美麻地域づくり会議

住所 大町市美麻11810-イ 電話29-2311 FAX29-2333 ・ 電子メール info@miasa.info